

これならできる!「原価くん」「番頭さん」で経営改善

阪神農業改良普及センターは商品の正確な原価や利益を把握するため、原価計算ソフト「原価くん」とその分析ソフト「番頭さん」を開発した。管内の農産加工グループは、簡単に原価計算ができるこのソフトを使って製造コストに見合った価格を設定し、作業計画を作成するなど経営改善に取り組みつつある。

1 はじめに

阪神地域は大消費地に近く、農産加工グループ等が盛んに加工品を製造販売しているが、商品の原価や利益を正確に把握していないため、製造コストに見合った価格設定や作業の効率化ができていない場合が多い。このため、原価計算により製造コストを把握し、生産工程を見直し収益性を高める必要があった。

2 原価計算ソフト「原価くん」の開発

阪神農業改良普及センター（以下普及センター）は原価計算の必要性を農産加工グループに説いたが、計算方法が複雑で受け入れられなかった。そこで、複雑な計算を省略できる原価計算ソフトを開発した。このソフトを使うと、「1回又は1日の加工作業の製造工程管理表（作業内容・時間・人数）」を作成し、「原材料の仕入量、仕入価格」「完成した加工品の数量、販売価格」を順次入力するだけで製品1個当たりの原価が算出できる。

このソフトを導入した管内の農産加工グループは、全商品の原価や利益を算出し、製造コストに見合った価格設定、作業計画を作成して経営改善を進めている。

3 分析ソフト「番頭さん」の開発

「原価くん」で計算した商品ごとの原価と利益を並べて比較したいとき、商品ごとにその都度グラフを作成するのが面倒であった。そこで普及センターは「原価くん」から原価計算結果を吸い上

げ、自動的にグラフ化して一覧表示することができる分析ソフト「番頭さん」を開発した。これを使うと、各商品の原価（材料費、労務費、経費）と利益を比較しやすくなり、生産改善が必要な商品を判別することができるようになった。さらに、このソフトは年間生産計画を樹立する機能も備え、加工作業1日単位での利益も分析できるため、生産計画の樹立や修正が速やかにできるようになった。

4 普及上の注意事項

「原価くん」を使うと日頃の作業内容だけを入力すれば原価計算ができるので、農産加工グループには、「これならできる!」と好評であるが、グループにパソコン操作に堪能な人が必要になる。また、製造原価に見合う価格設定や作業計画を作成するだけでなく、そのデータをうまく活かして経営改善に繋げていくかが重要である。

寺尾 勇人（阪神農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：079-562-8861）



写真 加工グループを対象にした研修会の様子